

疾患名 尿路上皮癌(腎盂癌・尿管癌・膀胱癌)プロトコール名 M-VAC 療法

- 進行・再発癌 術後補助化学療法 術前補助化学療法
 大量化学療法 局所療法 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与期間	投与日(d1・d8等)
1	MTX	30mg/m ²	静注	緩徐	d1・d15・d22
2	VBL	3mg/m ²	静注	緩徐	d2・d15・d22
3	ADM	30mg/m ²	静注	緩徐	d2
4	CDDP	70mg/m ²	点滴	2時間	d2
5					
6					

1コース期間(次コースまでの標準期間)	4週間
総コース数	規定はない 3~4コースが多い
コース間での休薬の規定	d15・d22は、白血球数2,000/mm ³ 未満・血小板数10万/mm ³ 未満・好中球数1,000/mm ³ 未満

減量規定・中止基準	患者の状態により適宜減量(年齢・症状・副作用)
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	規定はないが、VBL → ADM → CDDP としている
プレメディケーション・ポストメディケーション	CDDP: 投与前・後 各々1,000~2,000mlの補液 投与に際し必要に応じ利尿剤の投与を行なう

患者条件

除外規定

禁 忌	MTX	VLB	ADM	CDDP
本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者	○	○	○	
本剤又は他の白金を含む薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者				○
肝障害のある患者	○			
腎障害のある患者	○			
重篤な腎障害のある患者				○
胸水、腹水のある患者	○			
心機能異常又はその既往のある患者			○	

次の部位には投与しないこと: 髄腔内		○		
妊婦又は妊娠している可能性のある婦人				○

事実上の注意点

- ・投与前の白血球数が2,000 /mm³未満、血小板数が10万/mm³未満であった場合には、投与を延期すること。
- ・白血球(好中球)減少、血小板減少は、約2週間前後で最低値となり、本療法の15日目の投与(MTX,VLB)と重なるため、第15日目、第22日目投与前には血液検査を可能な限り実施すること。
- ・放射線照射の既往がある患者では、骨髄抑制等の副作用が強くあらわれることがあるので、慎重に投与すること。
- ・M-VAC療法は、腎機能の低下している患者に対しては、投与を行わないか、あるいは投与を延期する等、投与症例の選択を行なうこと。
- ・特にMTX、CDDPの投与前に、クレアチンクリアランス(Ccr)および血清クレアチニンの検査を実施し、腎障害がないことを確認するとともに、CDDP投与時には、十分な水分負荷および利尿剤の投与を行なうこと。
- ・MTXは酸性尿では溶解性が低下し、尿細管での析出による腎障害の可能性がある(尿pH7以上を推奨)ため、(strikethrough: CDDP投与時の)利尿剤(マンニトール、フロセミド等)をMTX投与時には投与しないこと(これらの利尿剤は尿を酸性化する可能性がある)。なお、翌日のCDDP投与中は、尿量確保に注意し、必要に応じて利尿剤(マンニトール、フロセミド等)を投与すること。
- ・本療法中には強い悪心、嘔吐や口内炎、脱毛があらわれることがあるので注意すること。

その他(特記事項)

ADMの総投与量は 500mg(力価)/m²以下とする